

2023年5月15日

2023年12月期 第1四半期決算カンファレンスコール 説明要旨



皆様こんにちは。日本ペイントホールディングス共同社長の若月です。
本日はご多忙の中、ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

これより、2023年第1四半期決算の概要についてご説明いたします。

1. 2023年第1四半期の決算概況

2023年1Q^{※1}



(短信ベース)

| (億円) | 実績 | YoY |
|-------|-------|--------|
| 売上収益 | 3,302 | +15.8% |
| 営業利益 | 349 | +59.4% |
| 営業利益率 | 10.6% | +2.9pt |

(実質ベース)

| (億円) | 実績 | YoY |
|-------|-------|--------|
| 売上収益 | 3,108 | +9.0% |
| 営業利益 | 317 | +32.0% |
| 営業利益率 | 10.2% | +1.8pt |

◆ **短信ベース**

- 建築用を中心とした販売数量の増加や製品値上げの浸透、JUB社の新規連結効果、為替影響などにより、増収
- 原材料費率の改善により、売上総利益率は前期比、前四半期比ともに3四半期連続で改善
- トルコにおいて引き続き超インフレ会計を適用(1Qは売上収益c.※2+2億円、営業利益c.-14億円)
- 営業利益は、増収・粗利改善効果により、増益

◆ **実質ベース**

- 中国の建築用は、TUCにおいてコロナ規制の緩和で経済活動が順調に進展し、+19%増収。TUBにおいては、不動産市場は依然軟調も、一時期に比べて状況が改善しており、+5%増収
- 中国全体の利益率は12.9%に改善し、前期比で5.0pt改善、前四半期比でも3.9pt改善
- 建築用は、各地で数量成長や製品値上げが浸透した結果、悪天候の影響を受けた米州以外の地域で、増収
- 自動車用は、生産台数が大きく落ち込んだ前年からの反動増もあり、日系完成車メーカーの生産台数が減少した中国以外の地域で、増収

| 売上収益 YoY分析 | 塗料・コーティング事業 | | | 塗料周辺事業 | 為替影響 | 新規連結影響 |
|---------------|-------------|---------|-----------------------------|--------|--------|--------|
| | 販売数量 | 価格/ミックス | 塗料事業 (その他) ^{※3} | | | |
| | c. +5% | c. +1% | c. +1% | c. +2% | c. +5% | c. +2% |

※1 2022年第2四半期よりトルコにおいて超インフレ会計の適用を開始したこと、Cromology社においてPPAが確定したことに伴い、2022年の各四半期の遡及修正を実施。以降のページも同様 ※2 circa: 約
 ※3 塗料・コーティング事業に含まれるものの、半導体やファインケミカルなど、塗料製品とは数量単価が大幅に異なる製品を指す。より合理的なデータを出すため、販売数量、価格/ミックスから切り出して開示

まずは、2023年第1四半期の決算概況です。

短信ベースでは、売上収益は前年同期比15.8%増の3,302億円、営業利益は同59.4%増の349億円となり、大幅な増収増益となりました。売上収益の分析は説明資料の下段にありますが、塗料事業の販売数量、価格/ミックス、塗料周辺事業、為替影響、新規連結効果の全てがプラスとなっています。

利益面では、原材料価格の影響が引き続き緩和される中、製品値上げの浸透が進み、売上総利益率は順調に改善しています。なお、Cromology社の買収に伴うPPA(Purchase Price Allocation)のステップアップ費用などは2022年第3四半期に計上していましたが、2022年の短信ベースを遡及修正することで、買収が完了した2022年第1四半期に計上していますので、前年比較においてはご注意ください。

新規連結影響、為替影響、一過性費用など除いた実質ベースでは、前年同期比9.0%の増収、同32.0%の増益となっており、営業利益率は10.2%と同1.8ポイント上昇し、引き続き改善傾向を示すことができました。

中国の建築用については、4月の中期経営計画(2021-2023年度)進捗説明会において、第1四半期の速報値をお示ししましたが、結果としてTUCは前年同期比19%増収、TUBは同5%増収、中国全体での営業利益率は同約5ポイント上昇と大幅に改善しています。

2. 原材料市況・当社状況

製品値上げの浸透と原材料費率の低減によるマージン改善を引き続き追求

2023年1Q

- ・ 欧米のインフレ対策に伴う政策金利の引き上げや金融不安、中国のゼロコロナ政策からの回復遅延により、世界的に経済活動は停滞感が継続
- ・ こうした影響を受けて、原油価格は前四半期比で6%下落。国産ナフサ価格も同4%下落
- ・ 原油・ナフサ以外の価格転嫁（燃料コスト、物流、設備老朽化による投資費用の転嫁など）は依然として継続しており、原油・ナフサ下落の恩恵を享受できない状況が継続
- ・ 原材料費率は大部分の地域で低下傾向にあり、売上総利益率は前期比、前四半期比ともに3四半期連続で改善

売上総利益率*

| 2022年1Q | 2022年2Q | 2022年3Q | 2022年4Q | 2022年通期 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 37.6% | 36.1% | 37.0% | 38.4% | 37.2% |
| 2023年1Q | 前期比 | 前四半期比 | | |
| 39.3% | +1.8pt | +0.9pt | | |

2023年2Q以降

- ・ 景気減速懸念、金融不安により、原油価格は3月中旬に72米ドルまで下落（国産ナフサ価格も6-7万円で推移）していたものの、4月に入ってOPECが追加減産を発表したことで原油価格が再び上昇するなど、今後の影響は注視が必要
- ・ 製品値上げの浸透と原材料費率の低減により、売上総利益率は前期比で改善の見通し

NIPPON PAINT GROUP ※P3記載の通り、2022年の各四半期の選及修正を実施

4

原材料市況については当ページに記載の通りですが、世界的には景気減速に伴う需要低下もあり、インフレ影響は相応に軽減しつつあると考えています。

もちろん、原材料市況の低下は販売価格にも影響し得ますが、マージンの改善は継続的に志向していく考えです。

3. 市況・事業環境

NIPSEA中国の自動車用は特に日系の生産台数の減少、米州建築用は悪天候の影響を受けて市況軟調

| | | 日本 | NIPSEA中国 | | 豪州 | 米州 | 欧州 |
|-----------------------|-----|----|----------|-------|----|----|----|
| 2023年 第1四半期 | 自動車 | ⇒ | ⇩ | | △ | ⇒ | △ |
| | 建築 | ⇒ | ⇩ TUC | ⇒ TUB | ⇒ | ⇩ | ⇒ |
| 2023年 第2四半期 見通し | 自動車 | ■ | ■ | | △ | ■ | △ |
| | 建築 | ■ | TUC | TUB | ■ | ■ | ■ |

■ 市況 (前年同期比) ■ 好調 ■ 軟調 ■ 悪調
■ 市況 (市場対比)[※] ■ アウトパフォーム ■ インライン ■ アンダーパフォーム

NIPPON PAINT GROUP

こちらは、市況・事業環境に関するヒートマップです。

第1四半期におけるNIPSEA中国の自動車用は市況が全般に軟調となる中、当社が強い日系自動車メーカーの生産台数の減少が響いた一方、相対的に現地EVメーカーなどがシェアを伸ばした結果、当社のシェアは少し低下したと分析しています。

NIPSEA中国の建築用については、TUCはシェア上昇、TUBはシェア横ばいと分析しています。

米州の建築用については、非常に厳しい市況環境でした。当社は西海岸を中心とした事業を行っていますが、そこの天候不順の影響は競合他社も同様に受けていると考えており、その限りにおいてシェアは維持という意味である点をご留意ください。

4. 主要セグメントの決算概況

| (億円) | | 短信ベース | | 実質ベース | | 概要 |
|-------------|------|-------|---------|-------|---------|---|
| | | 23年1Q | YoY | 23年1Q | YoY | |
| 日本 | 売上収益 | 470 | +12.4% | 467 | +11.8% | ▶汎用 1月中旬以降の寒波や降雪の影響を受けたものの、製品値上げの効果もあり、増収 ▶自動車用 半導体不足などによる部品供給の停滞影響に対する不安は引き続き残るものの、自動車生産台数が大幅に落ち込んだ前年からの反動増もあり、増収 |
| | 営業利益 | 26 | +810.5% | 26 | +223.4% | |
| NIPSEA 中国 | 売上収益 | 1,085 | +12.7% | 1,035 | +7.5% | ▶汎用 (TUC) 3~6級都市における販売好調に加え、コロナ規制の緩和で経済活動が進展したことで、+19%増収 ▶汎用 (TUB) 不動産市場は依然として弱いものの、一時期に比べて改善傾向にあり、+5%増収 ▶自動車用 電気自動車 (EV) 市場が伸びる中で日系完成車メーカーを中心に自動車生産台数が落ち込んだ影響により、減収 |
| | 営業利益 | 142 | +78.5% | 133 | +75.2% | |
| NIPSEA 中国以外 | 売上収益 | 695 | +21.2% | 684 | +19.3% | ▶NIPSEA 中国以外 全体では+19.3%増収。マレーシアGrは製品値上げの浸透などに伴う成長により、増収。シンガポールGrはベトナムや通貨安の影響を受けたスリランカの軟弱により、前期並み。タイGrは自動車生産台数の回復に加え、完成車メーカー、部品メーカーにおけるシェア上昇により、増収 ▶PT Nipsea社 製品値上げの浸透や販売網の拡大、代理店の拡充、CCM ^{※1} の普及、工業用の成長により、増収 ▶Betek Boya社 地震の影響による需給の悪化も、製品値上げの浸透に加え、ブランド戦略の奏功により、増収 |
| | 営業利益 | 103 | +21.1% | 94 | +10.5% | |
| Dulux Group | 売上収益 | 817 | +20.2% | 716 | +5.3% | ▶DuluxGroup社 (汎用) 原材料価格の高騰に対応した製品値上げの浸透により、増収。ただし、コロナ影響を受けた需要増からの反動が続く市場要因と金利上昇に伴う消費者需要への影響などの経済要因により、数量面では伸び留む ▶Cromology社 原材料価格の高騰に対応した製品値上げが、市場弱含みに伴う数量減を吸収し、増収 ▶JUB社 2022年第1四半期のみ実施したプロジェクト活動の反動と、市場影響を受けたETICS ^{※2} の数量減により、減収 |
| | 営業利益 | 73 | +38.2% | 64 | -12.7% | |
| 米州 | 売上収益 | 234 | +8.3% | 206 | -4.8% | ▶汎用 米国経済や住宅市場の減速に加え、カリフォルニア州における悪天候の影響を受けたことにより、減収 ▶自動車用 自動車生産台数が大幅に落ち込んだ前年からの反動増もあり、増収 |
| | 営業利益 | 7 | -13.7% | 7 | -24.6% | |

NIPPON PAINT GROUP ※1 Computerized Color Matching ※2 External Thermal Insulation Composite System (断熱材)

6

主要セグメントの概況についてご説明しますが、詳細は質疑応答に委ねます。説明資料 P15 以降も併せてご覧ください。

1. 日本セグメントは、2022 年第 1 四半期と比べれば大幅に改善したものの、営業利益率は短信ベースでは 5.6%に過ぎず、引き続き改善の余地があります。自動車用、船舶用はだいぶ改善した一方、工業用は市況が依然として回復せず、汎用も天候に少し悩まされました。なお、2022 年、2023 年ともに日本ペイントコーポレートソリューションズ (NPCS) の費用が含まれているため、2023 年からは同一条件下での比較が可能になっています。
2. NIPSEA 中国については、既に主要点をお伝えしていますので、質疑応答に委ねます。
3. NIPSEA 中国以外のアジアは引き続き堅調に成長しており、利益も十分に確保しています。中でもインドネシアが増収と利益率の改善の両方を達成しています。一方、トルコについては、増収こそ確保したものの、地震の影響もあって販売数量はほとんど伸びず、価格面での増収効果が中心となっているほか、残念ながら超インフレ会計が影響して会計上は減益となりました。会計上の営業利益に与える影響額は 14 億円程度であったことから、これを戻せばまずまずの結果となるものの、販管費などもブランド投資のために一時的に増やしていることから、マージンは超インフレ会計を適用する前でも少し圧迫されています。
4. DuluxGroup セグメントにおいては、メインとなる太平洋地域において市況が振るわず数量が伸び悩んだものの、製品値上げが浸透しており、増収増益を達成しています。一方、欧州地域においては、Cromology 社が製品値上げによる増収を確保しましたが、厳しい市況とコスト上昇によって減益となっています。なお、2023

年第 1 四半期から Cromology 社も実質ベースに含めており、短信ベースとの差は JUB 社のみとなっています。また、2022 年の短信ベースを遡及修正しており、PPA に伴うステップアップ費用などを買収が完了した 2022 年第 1 四半期に計上していますので、前年比較においてはご注意ください。

5. 米州においては、自動車用が回復傾向にある一方、汎用は金利上昇に伴う住宅市場の減速に加えて、非常に荒れた西海岸の天候影響によって、前年同期に比べて厳しい結果となりました。一つ例を挙げるならば、南カリフォルニアのロサンゼルス地域における 1-3 月の降雨日数は、2022 年の 6 日に対して 2023 年は 35 日、降雨量も 2022 年の 1.7 インチに対して 2023 年は 22.6 インチに上り、厳しい四半期となりました。

5. 主なトピックス①

- 2022年より就任した独立社外取締役2名が、各委員会に新たに就任
 ・ 新たな取締役会・委員会体制にて株主価値最大化 (MSV) の実現を支えていく

| 氏名 | 委員会 | | | 経験・スキル | | | | | | | |
|----|-----------|--------|--------|--------------|-------------|-----------|--------|----|-------------|----------------|---|
| | 指名 | 報酬 | 監査 | 事業会社 経営経験 | グローバル 経験 | M&A 経験 | ファイナンス | 法務 | IT/ デジタル | 製造/技術/ 研究開発 | |
| 社内 | ゴウ・ハップジン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 社外 | 原 壽 | ○(委員長) | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | |
| 社外 | ピーター・カービー | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 社外 | リム・フィーホア | ○(委員長) | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 社外 | 三橋 優隆 | | ○(委員長) | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 社外 | 陸星 俊男 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | |
| 社外 | 中村 昌義 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 社内 | 若月 雄一郎 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 社内 | ウィー・シューキム | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | |

▶経験・スキルの詳細などはウェブサイト参照：<https://www.nipponpaint-holdings.com/sustainability/governance/board/#outline>

NIPPON PAINT GROUP

主なトピックスをご紹介します。4月の中計進捗説明会で詳しくご説明しましたので、アップデートはあまりありません。

当ページでは、新しい取締役体制についてご説明しており、2022年より参画しているリム・フィーホア氏が報酬委員長、ピーター・カービー氏が監査委員にそれぞれ就任しています。

5. 主なトピックス②

ガバナンスのウェブ企画「独立社外取締役の視点」更新

- ・ リム・フィーホア独立社外取締役のメッセージを新たに掲載(4月)
- ・ 他の独立社外取締役のメッセージも順次公開予定(不定期更新)

▶独立社外取締役の視点

<https://www.nipponpaint-holdings.com/sustainability/governance/directors/>

ガバナンスのウェブ企画「独立社外取締役への質問(一問一答)」更新

- ・ 以下3テーマについて新たに掲載
2月「取締役の人数およびスキル・マトリックス」
3月「独立社外取締役の役割、貢献」
4月「共同社長体制」
- ・ 今後も月1回更新予定

▶独立社外取締役への質問(一問一答)

<https://www.nipponpaint-holdings.com/sustainability/governance/q-and-a/>

独立社外取締役 リム・フィーホア



独立社外取締役への質問(一問一答)



当ページは開示拡充にかかるトピックスとしてご案内しています。当社や取締役会の考え方を理解していただくのにも有効なコンテンツとなっていますので、ぜひご覧ください。

以上、ご静聴ありがとうございました。